



菅波 茂

99. 11. 25

トルコ大地震や台湾大地震による被害が覚めやらぬうちに、今月に入ってアジアで水の被害が続出している。インド東部のカルカッタ近くにあるオリッサ州を襲ったハリケーンによる10年ぶりの大洪水で、約1万人の死者が出ている。トルコや台湾の大地震にも劣らない被害である。でも、なぜかメディアはあまり報道していないので、ご存知の方は少ないと思う。

AMDAはすでに多国籍医師団を編成した。オリッサ州へは日本、インドのマニパールそしてネパールのカトマンズからの医師団を、

人道援助都市

ベトナムの集中豪雨で被害が出たダナン一帯へは日本、ベトナムのハノイそしてカンボジアのプノンペンからの医師団を11月10日から現地に派遣した。

このような緊急救援活動を通して、各国に

支部および協力団体を拠点としたAMDAの世界的な人道援助のネットワークが確実に形成されてきている。このネットワークの中心はAMDAの本部がある岡山市である。

さらに来月、6回目の国際NGOサミットの開催を、岡山市の市民団体「国際貢献トピア岡山を推進する会(トピアの会)」が準備している。県、岡山、倉敷、津山

市などの自治体の支援体制も確実なものになってきている。過去5回のサミットで提案された姉妹縁組み、人道援助宗教者ネットワークなどの具体的な活動も、関係者の努力により市民に根付いて来ている。

トピアの会が「西のジュネーブ、東の岡山」のスローガンで目標としている「人道援助の世界都市岡山」の形がゆっくりと見え始めてきている。岡山市の「国際福祉都市」構想も一層の拍車をかけそうだ。「燃えない岡山が燃えた」と言われた、あの阪神大震災の際の県民挙げての救援活動の精神風土がその基盤となっているのは疑いない事実である。

(アジア医師連絡協議会代表、題字は筆者)